

「明るく元気ないわき市」を目指して

「魅力あふれるひと・まち・しごとの実現」

平成三十年新春市長記者会見を一月五日に、市役所で行いました。清水市長は、本年の市政運営について年頭所感を述べ、今後のまちづくりなどについての考えを明らかにしました。

清水市長は、昨年の本市における明るい出来事を振り返るとともに、市以和貴まちづくり基本条例の理念に基づいて、さまざまな取り組みを行ったことについて報告しました。

市政運営については、復興の着実な推進と、魅力あふれるひと・まち・しごとの実現に向け、共創のまちづくりを推し進めていく考えを明らかにしました。

市政運営について

「明るく元気ないわき市」を目指して、震災からの復興・再生と、魅力あふれるいわきの創生に重点点で取り組んでいきます。

復興・再生については、津波被災地域の新しいまちづくりとコミュニティの再生を着実に進め、復興に伴う新たな課題にも適切に対応しながら、さまざまな施策を実施していきます。

さらに本年は、国内外の大規模な会議やイベントが本市で開催されます。これまでの多くの支援に対する感謝の気持ちを伝えるとともに、復興の姿を全世界に発信していきます。

今後の主な会議やイベント

- ・第8回太平洋・島サミット（5月）
- ・第47回全国林業後継者大会（6月）
- ・第61回オールスター競輪（8月）
- ・第10回世界水族館会議（11月）

魅力あふれるいわきの創生に向けては、市民の皆さんをはじめとした、あらゆる主体と地域課題や思いを共有し、持てる知恵と資源を結集しながら、課題解決や新たな時代の創造に取り組むことが重要です。共創を原動力に、ひとが輝き、まちが魅力にあふれ、多様なしごとが豊かな生活を支えるまちの実現を目指していきます。

ふるさといわきの力強い復興の実現

ふるさといわきの力強い

復興を実現するため、市民の皆さんの早期生活再建などに、引き続き最優先で取り組んでいきます。

ふるさといわきの力強い復興の実現

○市民の皆さんの早期生活再建

- ・震災復興土地区画整理事業における宅地引き渡しの早期完了
- ・避難場所や憩いの場として利用できる豊間地区津波防災公園を整備
- ・薄磯地区に震災メモリアル中核拠点施設を整備
- ・防潮堤や防災緑地などを活用し、総延長約53キロメートルのサイクリングロードを整備
- ・コミュニティ形成を推進する活動などを支援



豊間地区津波防災公園（イメージ）



着実に進む側溝堆積物の撤去

○原子力災害への対応

- ・道路などの側溝堆積物撤去の早期完了
- ・原子力災害に備え、原子力防災に関する冊子を作成
- ・原子力防災訓練を継続して実施



住み続けたいと思えるまちづくりを推進

魅力あふれるひと・まち・しごとの実現によるいわきの創生

地域が人を育て、人が地域を創るといふ基本的な考えの下、ひとが輝くまちの実現を目指していきます。

また、本市の強みや深みを見つめ直し、地域の力を最大限に生かした地域づくりなど、魅力あふれるまちの実現を図るとともに、将来を見据えた産業振興策と雇用対策を一体的に推進し、多様なしごとが豊かな生活を支えるまちの実現に取り組んでいきます。

魅力あふれるひと・まち・しごとの実現によるいわきの創生

1 ひとが輝くまち

○子育て支援の充実

- ・いわきネウボラを深化させるため、さらなる情報発信や地域連携の仕組みづくりの検討を実施
- ・幼児教育・保育の充実や、保幼小連携の取り組みを推進
- ・子どもの健全育成に寄与する放課後児童クラブの整備を推進



いわきネウボラでは出産から子育てまで継続して相談などの支援を実施

○教育先進都市の実現

- ・外国語指導助手を増員し、英語教育の強化に向けた体制を整備
- ・次代を担う人財の育成や、教育を軸とした人財還流の仕組みづくりに向け、いわきアカデミアの取り組みを推進
- ・本市に定住・就業する予定の大学生などを対象に、奨学金返還を支援する事業を実施

○福祉・医療の充実

- ・高齢者などの健康増進に向け、地域の皆さんが主体的に運営する「つどいの場」で会食事業を実施
- ・医師の招聘を強化し、民間病院などと共同で共創型・地域医療寄附講座開設事業を実施

3 多様なしごとが豊かな生活を支えるまち

○農林水産業

- ・農業分野の六次化を支援
- ・いわきライキの魅力発信とブランド化を推進
- ・東京都港区との協定に基づき、本市産木材の活用拡大を推進
- ・販売促進などを行い「常磐もの」ブランドを確立

○商工業

- ・廃炉・ロボット関連産業や再生可能エネルギー関連産業などの企業誘致を促進
- ・バッテリーバレー構想を推進するため、産学官などで連携し、バッテリー産業の集積に向けた施策を実施
- ・水素関連産業の振興の可能性や、利活用に向けた課題などの検証を推進
- ・風力メンテナンス産業を中心とした産業集積を目指し、関連企業の誘致を促進
- ・さまざまなクリーンエネルギーが供給される都市づくりに向け、関係団体とのネットワークや推進体制を構築
- ・企業の本社機能の誘致を引き続き促進
- ・女性や障がいがある方など、多様な人財が働きやすい職場づくりに向けた取り組みを実施

○観光業

- ・クルーズ船誘致の取り組みを推進
- ・外国人観光客の誘致促進を図るため、インバウンド事業を積極的に展開
- ・都市ブランド力の向上に向けた基本指針となる市シティセールス戦略を策定し、戦略的な各種プロモーション活動を実施



ブランド米「いわきライキ」の収穫



いわきバッテリーバレーフェスタ2017で水素バスが県内初運行

原子力災害時における高萩市民の県外広域避難に関する協定を締結

市は、12月26日に茨城県高萩市と同協定を締結しました。

同協定に基づき、茨城県において原子力災害が発生、または発生する恐れがある場合、本市が高萩市民の皆さんの避難先となり、茨城県の協力の下、避難者の受け入れを行います。

今後、災害発生時に円滑に避難できるよう、情報交換など相互交流を図っていきます。



原子力災害に備え協定を締結

災害時における地図製品等の供給等に関する協定を締結

市は、1月17日に株式会社ゼンリンと同協定を締結しました。

同協定に基づき、ゼンリン住宅地図帳の提供や、複製利用許可証の事前発行など、災害発生時に即時に住宅地図が利用できるよう、さまざまな支援が行われます。

防災・減災のための地図作成に住宅地図を活用するなどし、地域防災力の向上を推進していきます。



防災力の向上に向け協定を締結

2 魅力あふれるまち

○魅力あふれる地域づくり

- ・平並木通り地区市街地再開発事業の都市計画決定に向けた取り組みを推進
- ・磐城平城本丸跡地の公有地化を図り（仮称）磐城平城・城跡公園として整備
- ・（仮称）イオンモールいわき小名浜がオープンする小名浜港周辺のさらなる発展を促進
- ・鉄道事業者と一体となり、植田駅の早期のバリアフリー化を実施
- ・地域おこし協力隊や集落支援員による活動を通じ、地域資源の発掘・発信を推進
- ・老朽化した小川支所庁舎の整備の検討を実施
- ・三和地区小中一体型校舎などを整備

○将来を見据えたまちづくり

- ・都市計画マスタープランの見直しを実施
- ・都市のコンパクト化とネットワーク化の考え方を取り入れた立地適正化計画の策定に着手

○安全・安心なまちづくり

- ・防犯灯のLED化を推進
- ・空き家の利活用に向け、空き家バンクシステムを構築

○文化・スポーツを通じたまちづくり

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における聖火リレーの誘致に向け、榎葉町・広野町と連携して（仮称）被災地復興トーチリレー2018を実施
- ・ラグビーワールドカップ2019に向け、サモア独立国とのホストタウン交流事業を継続して実施
- ・いわきFCなどと連携し、スポーツの持つ力を最大限に活用したまちづくりを推進
- ・アリオスや市立美術館などの文化芸術活動の拠点機能を充実



（仮称）磐城平城・城跡公園（イメージ）



6月にオープン予定の（仮称）イオンモールいわき小名浜



サモア独立国ラグビーチームの事前キャンプについて協議



聖火リレーの誘致に向け、昨年実施した復興トーチリレーinいわき2017